11th World Scout Youth Forum

Brasil 2011

11th World Scout Youth Forum

11e Forum des Jeunes du Scoutisme Mondial

第 11 回世界スカウトユースフォーラム派遣報告書

Reported by Yudai Suzuki
Chihiro Nagata
Yohei Ueda

11th WSYF

Contents

3-6 January, 2011 Blumenau, Brazil

派遣概要 Page 2

(派遣事業名/派遣期間/開催場所/主催/派遣目的/派遣員/派遣日程)

フォーラム活動報告 Page 4

(フォーラム概要/第 11 回世界スカウトユースフォーラム概要/ワークショップ及び分科会/ユースアドバイザー/提言文/フォーラム期間中のイベント)

インターイベント活動報告 Page 16

評価・反省 Page 17

(フォーラムへの評価/ホスト国連盟の運営面への評価/個人評価)

日本連盟への提言 Page 21

派遣概要

❏派遣事業名　第 11 回世界スカウトユースフォーラム

❏派遣期間　2011 年 1 月 1 日～2011 年 1 月 17 日

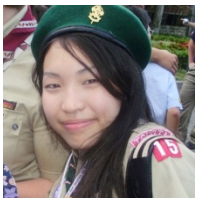
❏開催場所　ブラジル連邦共和国、サンタ・カタリーナ州、ブルメナウ市、ビエナパークホテル

❏主催　世界スカウト機構（World Organization of the Scout Movement[1]）

❏派遣目的　第 11 回世界スカウトユースフォーラム派遣員は、本フォーラムを通して、世界のスカウティングへの理解を深め、フォーラム期間中に行われる提言文採択に参画し、民主主義的プロセスにおける決議方法を学ぶ。また分科会で各国の多様なバックグラウンドを持つスカウトと討論し、スカウティングにおける情報共有だけでなく市民社会における青年としての資質の向上を図る。加えて、各種親善イベントに参加し各国のスカウトと友好を深め、相互理解に努める。

❏派遣員

・鈴木裕大　日本派遣員正代表
山形連盟山形地区山形第 29 団ローバー隊



・永田千尋　日本派遣員正代表
愛知連盟豊田地区豊田第 15 団ローバー隊

・上田陽平　日本派遣員オブザーバー
東京連盟練馬地区練馬第 15 団ローバー隊
東京連盟大都心地区千代田第 11 団ローバー隊

[1] World Organization of the Scout Movement：略称は WOSM

❏派遣日程

日付	場所	内容
1 月 1 日	成田空港 ニューヨーク	成田空港に集合、ニューヨークに向けて出発。 ニューヨークよりリオデジャネイロへ出発。
1 月 2 日	リオデジャネイロ クリチバ	リオデジャネイロよりクリチバへ出発。 クリチバよりブルメナウにバスで移動。
1 月 3 日	ブルメナウ	フォーラム会場であるブルメナウのビエナホテルにてチェックイン。 午前：基本事項確認、前回大会の報告と今大会の発表、セッション 1。 午後：セッション 2、IC[2] (インターアメリカ)、開会式。
1 月 4 日	ブルメナウ	午前：セッション 3、IC(APR[3])。 午後：セッション 4、ユースアドバイザー候補者演説、IC(ユーラシア)、プロジェクトフェア。
1 月 5 日	ブルメナウ	午前：セッション 4、IC(ヨーロッパ)、オープンフォーラム。 午後：ユースアドバイザー選出、セッション 5。
1 月 6 日	ブルメナウ	午前：セッション 6、地域別会議、IC(アフリカ)。 午後：提言文採択と修正、今大会の総括発表、閉会式。
1 月 7 日	ブルメナウ	午前：ブルメナウよりインターイベント会場のフロリアノポリスにバスで移動。 ※9 日までインターイベントに参加。
1 月 9 日	クリチバ	世界スカウト会議代表団と合流。 ※14 日まで世界スカウト会議に参加。
1 月 15 日	クリチバ サンパウロ	クリチバよりサンパウロへ出発。 サンパウロよりニューヨークへ出発。
1 月 16 日	ニューヨーク	ニューヨークより成田空港へ出発。
1 月 17 日	成田空港	成田空港到着。解散式。

[2] IC：インターナショナルコーヒーブレークの略称
[3] APR：アジア太平洋地域の略称

フォーラム活動報告

❏フォーラム概要

世界スカウトユースフォーラムは、意思決定のプロセスを通して、青年が自らの考えを表明し討論すると同時に、それらに必要な技能を習得する機会である。また世界スカウトユースフォーラムは、青年スカウトが、世界スカウト会議で取り上げられる議題への準備をするための場でもあり、各国のスカウトとの意見交換などを通じて、問題に対する理解を深める機会でもある。

フォーラムの参加者は世界各国から集まるため、それぞれが違った生活環境、スカウティング環境、文化環境、言語環境に属する。そのような中での意見交換を行うことは、スカウティングだけでなく、人としての成長にも寄与すると言える。

世界スカウトユースフォーラムで討議された内容は、フォーラムの最後に世界スカウト委員会への提案としてまとめられ提出される。また、6 人のユースアドバイザーが世界スカウトユースフォーラムから選出され、世界スカウト委員会に参席することにより、青年スカウトの意見が世界のスカウティングに反映される。

❏第 11 回世界スカウトユースフォーラム概要

第 11 回世界スカウトユースフォーラムは、ブラジルのブルメナウにおいて、2011 年 1 月 3 日から 1 月 6 日にかけて行われた。今回の世界スカウトユースフォーラムには、75 カ国から 169 名のスカウトが参加し、また、世界事務局、世界委員会等からも参加があった。

ユースフォーラムのプログラムは、今大会のテーマである”Paddle Your Own Canoe”、”Youth Empowerment”に焦点を当て、Explore、Develop、Respond という流れで行われた。 Explore では、スカウティングに対する状況を確認し、Develop、Respond で、それぞれの状況において、自分たちの持っている技能と知識を共有し、どのような策が考えられるかについて意見交換を行った。

今回のフォーラムでは 6 名のユースアドバイザーが選挙を通じて選ばれ、世界スカウト委員会の会議等に参席し青年の意見を発信していく。また、ユースアドバイザーは次 回のフォーラムの実行委員を務める。

❏ワークショップ及び分科会

■セッション 1.　“Explore” — Youth Empowerment
本セッションでは、現在ユースがおかれている状況について各スカウトの意見を共有することが目的であった。最初のセッションということで、ファシリテーターのもと、各グループで話し合った。

【鈴木裕大】
それぞれが、ユースが、現在スカウティングにおいてどのような位置づけであるかについて意見交換を行った。また、それぞれが信じるスカウトのあるべき姿の共有もなされていた。スカウトのあるべき姿は、それぞれが行ってきたスカウティングと密接に関わるものであることを考えると、とても興味深いものであった。また、ユースに対するそれぞれの分析が、人それぞれ異なっていて、それぞれが説得力を持つものであった。

■セッション 2.　“Explore” － The Worldwide Scout Movement
－ WWM-Scouting (International Scouting)
本セッションでは、ローバー年代のための新しいガイドラインについて触れ、WOSM の戦略について話し合うことが目的であり、それぞれのスカウトが意見交換を通して、議論を行った。

【分科会：Volunteering for Scouting－鈴木裕大】
　本分科会では、ボランティアのコンセプトをさぐることを目的として話し合った。その際、各国連盟ではどういった状況なのかということが話題にあがったが、日本において、ボランティアというものはそれほど優先されない状況であることが印象的だった。しかし、それぞれの意見を挙げ、意見を共有することのみで終わってしまった気がする。

【分科会：Youth Involvement－上田陽平 】
本分科会では、各国のユース及びローバースカウトの定義について話し合った。もちろん意見の個人差はあったが、相対的にヨーロッパ出身のスカウトからは 18 歳から 26 歳という意見が多かったが、アフリカ系のスカウトからは社会構造を背景に 30 歳までをユースと定義するべきとの意見が出た。最終的にその国の社会情勢を考慮してそれぞれの国で適切なユースの定義を追及するべきとの結論に達した。

【分科会：Your Jobs now－上田陽平 】
本分科会ではスカウティングの戦略が正しく機能しているかを議論した。
アジア各国からは意思決定機関における青年参画の不徹底が指摘され、スカウティング戦略が国によって徹底されていないことを確認した。また、メキシコからは金銭面の理由からスカウティングが社会に対して開かれていないという指摘があり、スカウティングがまだまだ社会に対して開かれていないことを再確認した。
各 NSO は、より柔軟に時代に応じた戦略を実施する必要があるという結論に達した。

■セッション 3.　“Explore” － Youth Empowerment
本セッションでは、世界スカウト機構の青年参画に対するビジョンと戦略について、評価・討論することが目的であった。

【分科会：Social Responsibilities of Scouting－鈴木裕大】
幸せになるためには、どんなものが必要かについてそれぞれが思うことを共有し、挙げられたものから出発して、それらのものを、スカウティングを通してどのようなアプローチで何ができるか、何をすべきなのか、そして、ユースだからできるものは何かを討論した。特に印象的だったのは、性別で区別されない活動がスカウティングではできるという意見だった。

【分科会：Youth Participation－上田陽平 】
本分科会ではユース世代のスカウトの社会貢献についてのディスカッションを行った。
各国連盟で実施されている活動について共有した。レバノン等多くの国で環境問題をテーマとしたプロジェクトが実施されている。日本からはカントリー大作戦や Nepal Project について発表した。

【分科会：Rights of young people－上田陽平 】
本分科会では、2020 年までに世界中の青年がどのような権利を獲得するべきかについての議論を行った。ここでは各スカウトが獲得するべき権利を発表した。いくつかの国々からは徴兵制からの自由が主張されおり、自分にとっては印象深い意見であった。ここでも最終的に国によって、青年参画の重要性と獲得するべき権利が異なることを確認した。

■セッション 4.　“Develop” － WWM-Scouting
－ Youth Empowerment
本セッションでは、生きるための技能と、社会においての役割を果たすために必要な技能について話し合うことが目的であった。今ある技能に対する訓練を見つめ直すことも視野に入れて話し合われた。

【分科会：Life Skills－鈴木裕大】
本分科会では、自分の持っている有用な技能、また自分に不足している技能をそれぞれが挙げた。すると、ある人の持っている技能は、またある人の不足している技能であることがいくつかあった。その後自分の今から身につけたい技能についても話し合った。そして、どのようにして今もっている技能は伸ばしつつ、不足している又、習得したい技能を身につけることができるのかについて話し合った。

【分科会：Skills essential for everyday life －上田陽平 】
本分科会では今回のフォーラムを通して、自分自身がどのように成長できるかを議論した。各自が自己分析し、フォーラムでどのような技能を身につけることが可能か、またその技能はどのように日々の生活に役立つかをディスカッションした。

■セッション 5.　“Respond” － WWM-Scouting (Revitalizing the Scout Program)
本セッションでは各スカウトセクションごとに分かれて、それぞれのプログラムについて討論した。自分たちがそれぞれ行っているプログラムについての情報交換や、それぞれの目指すべきプログラムとはどういったものなのかについて討論した。

【分科会：Rover Scout－鈴木裕大】
各国がどのような活動を行っているかについて情報共有を行った。各国がおかれている状況によって、ローバーリングのあり方も、全く違っていることは明白であった。だからといって、状況の違う国で、そういうことをしては行けないということでは、決してないことも同時に認識した。

【分科会：Rover Scout－上田陽平 】
ローバースカウトは十分にトレーニングされたスカウトセクションでなければならないという意見が目立った。また、ローバースカウトは社会貢献が主たる活動でなければならないという意見も出た。相対的に発展途上国では社会問題に直結した活動が多い傾向にある。このような活動は教育的メリットが大きいという。

■セッション 6.　“Respond” － Youth Empowerment (Personal Commitment)
本セッションでは、これまでのセッションでの意見交換や討論を通して得たものを、各個人で自らのこれからすることをまとめ、それを他のスカウトに立会人となってもらい、まとめたことを誓うことが目的であった。

【分科会：Personal Commitment－鈴木裕大】
今の自分の人生を見つめ、そしてこれからの人生を想像し、それぞれ目標を設定し、自分のすべき、実現可能なこととして、自分の信じる道をこれからも疑いながら進むこととしてまとめ、イタリアのスカウトに立会人になってもらった。

【分科会：Personal Commitment－上田陽平】
各自の現在までの人生を踏まえて今後の自分自身の目標を設定し、各国のスカウトと発表し合う。私はスカウトとしての目標に、本フォーラムでの経験を今後の自分自身のスカウティングに活かすことに加え、日本のスカウトに対してフィードバックをしていくことを挙げた。全体的に、スカウティングに従事し良き社会人になるという意見が多かった。

■オープンフォーラム
オープンフォーラムは 1 月 5 日に開かれた。オープンフォーラムでは、世界スカウトユースフォーラムに参加したスカウトが、他のスカウトと意見交換や情報交換をしたい話題を挙げ、参加スカウトは、挙げられた話題の中から自分の興味のある話題を選び、討論を行った。

【Youth Involvement－鈴木裕大】
私のグループでは、各国連盟レベルでのユースがどのような役割を話しているかを話し、それをもとに、ユースはどのような役割を担うべきか、そして担うためにはどのようにしたら良いかを話し合った。国によって実態は違うものの、それぞれが目指す、担うべきユースの役割はさほど変わらないということが言えるような気がした。それでも、国によっては、ユースがトップに近い地位で活躍しているところもあれば、ユースが存在感を示してはいないところもあった。具体的な案を出すというよりも、情報共有という形で終わった。

【Youth Involvement－上田陽平】
私のグループではマケドニアのスカウトがホストとなり、世界スカウト会議におけるユース年代の理想的な割合について話し合った。「30 歳以下のスカウトを 2 名は世界スカウト委員会に入れるべき」という提案に対して話し合いを行った。それに対し、委員会の全メンバーを 50 歳以下で構成する案などがでた。また、2 名選出したところで委員会での実質的な発言力が伴わなければ無意味という意見も出た。ユースアドバイザーから委員を 2 名選出するという案も出たが、アラブ地域のスカウトはこの案の導入には難色を示していた。
やはりヨーロッパの国々ではユース年代が国連盟内で重要なポストについているが、アジアやアラブ地域では今回の提案があまりにもかけ離れているように感じた。
また青年参画における連盟の採択を多くの国連盟では実行に移していない状況を解決せねば、根本的な解決に繋がらないという意見が出た。本フォーラムでは最終的に結論を出すのではなく各国スカウトの意見交換で終わった。

■地域別会議
地域別会議は、各地域に分かれて、それぞれ自分の属する地域の連連盟
から提案された案に対して、地域の中でその提言文の目的や趣旨などを共有する場であった。いわば、提言文へ通すための根回しの意味も込めたものであると思われた。

❏ユースアドバイザー

■ユースアドバイザーとは
スカウト運動において意思決定機関での青年参画は最重要課題の一つである。
ユースアドバイザーは本運動体における青年参画の重要性から導入されたシステムであり、WOSM における青年参画の暫定的な進捗手段である。
ユースアドバイザーはユースフォーラムで選出され、任期は次回のユースフォーラムまでの 3 年間である。構成人数は 6 名で、地理的な選出条件は存在せず、各地域からの選出は求められていない。

■ユースアドバイザーの責任
ユースアドバイザーは以下の責任を全うしなければならない。

【世界スカウト委員会への責任】
ユースアドバイザーは全ての世界スカウト委員会の会議に出席し、意見及び提案の発表をする権利を与えられており、委員会から要請があればいかなる時でも出席する責任がある。また、委員会主催の各種ミーティングへの出席やワーキンググループへの参画が求められ、ディベート等において WOSM のユース世代の意見を届ける責任がある。加えて、ユースアドバイザーは世界スカウト委員会が設置する特別委員会等への積極的参画が求められている。

【WOSM のユース世代のスカウトへの責任】
ユースアドバイザーは世界スカウトユースフォーラムガイドラインに従って、次回のユースフォーラムの準備委員会を設立し、フォーラムのプログラム内容や協議事項を計画する。また、定期的に ScOutPost に彼らの活動を報告する義務があり、ユースフォーラムでは各国のスカウトにユースアドバイザーの 3 年の活動報告を行う責任がある。世界スカウト委員会には 3 年間の活動終了後に報告書の提出が義務付けられている。

■ ユースアドバイザー選出
今大会ではスーダン、シンガポール、ブラジル、デンマーク、アゼルバイジャン、レバノン、韓国、香港、アイルランド、ケニア、ベナン、ノルウェー、モルドバ、ヨルダンのスカウトがユースアドバイザーに立候補した。立候補者による演説後に、今大会の全参加国による多数決でブラジル、デンマーク、レバノン、ノルウェー、モルドバ、ヨルダンのスカウトが当選した。

ユースアドバイザー当選者
(左から)

・Ms. Sarah Rita Kattan	レバノン
・Mr. Vemund Ovesen	ノルウェー
・Mr. Felipe de Paulo	モルドバ
・Mr. Esben Holager	ブラジル
・Ms. Doina Postica	デンマーク
・Mr. Muath Zmaili	ヨルダン

❏提言文

■提言文とは
提言文は、世界スカウト会議の決議 6/02「世界スカウトユースフォーラムは、世界スカウト委員会が考慮すべきであると思われる提言文を世界スカウト委員会に対して作成する権利を与える」に基づいて作られるものである。これは、スカウティングにおける若い人々の意思決定への参画に対する大きな枠組みの一つにユースフォーラムが位置づけられることが大切であるためである。つまり、提言文の目的は、若い人々の意見を、世界スカウト委員会に直接届けることである。
提言文は、すべて世界スカウト委員会に対して作成され、提言文に対する考察や行動は、ユースアドバイザー、ScOutPost に報告され、提言文に対する世界スカウト委員会の決定は、次のユースフォーラムで正式に紹介される。

■日本が提案した提言文
以下の提言文を日本派遣員が提案し、本フォーラムにて可決された

提言文 BB：環境
提案国：日本
支持国：オーストラリア、台湾
第 11 回世界スカウトユースフォーラムは、
-国際連合食料農業機関のレポートにおいて、毎年地球上の 1300 万ヘクタールの森林が消え続けていると推測されていることを考慮して、
-環境は、スカウトプログラムにおいて中心的で、世界の良い市民を育てるための鍵となることを認識して、
-スカウティングに環境に対する重要性は、第 37 回世界スカウト会議における決議の環境教育と持続可能な開発、18/05、20/05 で強調されていたことに言及して、
-第 38 回世界スカウト会議で、世界スカウト環境プログラムが発表されたことに言及して、
-世界スカウトユースフォーラムや世界スカウト会議などの世界のスカウティングのイベントで多量の紙製品が準備書類などとして消費されていることを認識して、

以下を提言する：
・世界スカウト委員会は、世界のスカウトイベントにおいて、そのイベントの環境に対する影響を少なくすることを目的として、可能な限り発行物と書類をデジタルフォーマットで提供することを、積極的に奨励することを提案する。

■第 11 回世界スカウトユースフォーラムに提言文採択結果
※提言文の最終版は別紙参照。

提言文 A： 世界スカウトユースフォーラムの改善
提案国：オーストラリア
支持国：エクアドル、ニュージーランド、ルーマニア、アメリカ合衆国
日本：賛成
可決

提言文 B：フォーラムの取り組む文化と目標
提案国：ボスニア・ヘルツェゴビナ
支持国；セルビア、マケドニア
日本：賛成
可決

提言文 C：世界スカウトユースフォーラムにおける継続性
提案国：セルビア
支持国：ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア
日本：賛成
可決

提言文 D：世界スカウトユースフォーラム参加年代
提案国：マレーシア
支持国：シンガポール
日本：棄権
否決

提言文 E：ユースアドバイザーの提言文の提案権
提案国：オーストラリア
支持国：ボスニア・ヘルツェゴビナ、エストニア、アイルランド、オランダ、ノルウェー、スウェーデン
日本：賛成
可決

提言文 F：世界スカウトユースフォーラム参加者の準備
提案国：トリニダード・トバゴ
支持国：韓国
日本：賛成
可決

提言文 G：ユースアドバイザー選挙手順の変更
提案国：ニュージーランド
支持国：オーストラリア、インドネシア、マレーシア、韓国、ルーマニア、シンガポール、タイ
日本：賛成
否決

提言文 H：ユースアドバイザーの地域レベルでの選挙
提案国：マレーシア
支持国：ウガンダ
日本：反対
否決

提言文 I：意思決定における青年参画
提案国：デンマーク
支持国：日本、ヨルダン、ルクセンブルグ
日本：賛成
可決

提言文 J：世界スカウト委員会への若い候補者の任命
提案国：ボスニア・ヘルツェゴビナ
支持国：オーストラリア、セルビア、マケドニア
日本：賛成
可決

提言文 K：世界スカウト委員会における青年参画の明確化
提案国：マケドニア
支持国：スイス
日本：賛成
可決

提言文 L：世界スカウト委員会への若い候補者の任命
提案国：オランダ
支持国：アンゴラ、オーストリア、エクアドル、フランス、フィンランド、モルドバ、ルーマニア、アメリカ合衆国
日本：
可決

提言文 M：地域レベルでの青年参画と青年への権利付与
提案国：ヨルダン
支持国：エジプト、パキスタン、サウジアラビア、チュニジア
日本：賛成
可決

提言文 N：世界スカウト委員会への若い代表者
提案国：マケドニア
支持国：ボスニア・ヘルツェゴビナ、ドイツ
日本：賛成
可決

提言文 O：外部との関係と若い人々
提案国：フィンランド
支持国：アゼルバイジャン、ベルギー、エクアドル、エジプト、フランス、ドイツ、香港、パナマ、ポルトガル、ルーマニア、スペイン、ベネズエラ
日本：賛成
可決

提言文 P：世界のスカウティングの代表
提案国：メキシコ
支持国：韓国
日本：賛成
可決

提言文 Q：世界スカウト機構と世界人権宣言-手を差し伸べる、
より良い世界を作る
提案国：ベルギー
支持国：アンゴラ、オーストリア、デンマーク、エクアドル、エジプト、エストニア、フィンランド、フランス、香港、インドネシア、アイルランド、イタリア、レバノン、リヒテンシュタイン、メキシコ、モルドバ、ナミビア、パキスタン、パナマ、ロシア、サウジアラビア、シンガポール、スペイン、スウェーデン、オランダ、トリニダード・トバゴ、イギリス、アメリカ
日本：賛成
可決

提言文 R：資料を奨励する分野でのより良い実践の共有
提案国：スイス
支持国：ルーマニア、スロベニア
日本：賛成
可決

提言文 S：世界スカウトのウェブを基礎としたプラットホーム
提案国：ベルギー
支持国：アンゴラ、オーストラリア、オーストリア、バングラデッシュ、ブータン、フランス、イタリア、日本、リヒテンシュタイン、ロシア
日本：賛成
可決

提言文 T：WOSM／地域グループと NGO のパートナーシップ
提案国：フランス
支持国：ベルギー、レバノン、チュニジア
日本：棄権
可決

提言文 U：WOSM に対する言語翻訳
提案国：アルゼンチン、ブラジル、エクアドル、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ウルグアイ、アメリカ、ベネズエラ
支持国：ポルトガル、スペイン
日本：棄権
可決

提言文 V：ユース、平和と安全
提案国：オーストリア
支持国：エクアドル、フィンランド、ルクセンブルグ
日本：賛成
可決

提言文 W：スカウティングにおける特別な支援を必要とする加盟員に対する準備
提案国：ブラジル
支持国：アイルランド
日本：賛成
可決

提言文 X：信条を超えた精神的な対話
提案国：スペイン
支持国：台湾、エクアドル、フランス、リヒテンシュタイン、韓国
日本：賛成
可決

提言文 Y：国レベルでのスカウトの多様性
提案国：スペイン
支持国：フランス、リヒテンシュタイン
日本：賛成
可決

提言文 X：若い人々の権利
提案国：ケニア
支持国：ウガンダ
日本：賛成
可決

提言文 AA：文化の多様性
提案国：レバノン
レバノンによって棄却
提言文 BB：環境
提案国：日本
支持国：オーストラリア、台湾
日本：賛成
可決

提言文 CC：自然に対するよい転換を行うこと
提案国：香港
支持国：台湾、インドネシア、ヨルダン、パキスタン、パナマ
日本：賛成
可決

提言文 DD：トレーニング
提案国：アンゴラ
支持国：韓国
日本：棄権
否決

❏フォーラム期間中のイベント

■開会式
開会式は 1 月 3 日の 20 時 30 分から、ブルメナウ市内のカルロスゴメスシアターにて行われた。フォーラムの参加者とスタッフに加え、地元のスカウトも開会式に参加した。
式典後には DJ が音楽をかけて、ダンスパーティーとなった。

■インターナショナルコーヒーブレイク(IC)
各地域毎に、各国の文化紹介を行うイベントである。APR に所属する日本は 1 月 4 日の午前に実施した。和服を着用し、折り紙や金平糖、日本茶等を紹介した。加えて、本イベント中では地域ごとにダンスやゲームが催された。

■プロジェクトフェア
ホテル内のブースで各国連盟の活動発表が催された。日本派遣隊も準備はしていったが、ブースへの出展は予約制であったため、活動発表が出来なかった。しかし、本イベントを通して、各国の行事や活動への理解を深めることは出来た。

■閉会式
1 月 6 日のフォーラム最終日にビエナホテルの本会議場にて行われた。ユースアドバイザーの挨拶が終わると記念撮影が行われた。その後、本フォーラムの実行委員長に日本連盟の記念盾を寄贈した。

■ディナーパーティー
フォーラム終了後、ブルメナウ市内にあるビラゲルマニカというパーティー会場に場所を移し、ディナーパーティーが催された。ブルメナウはドイツ系移民の町であることから、会場はドイツの町並みや音楽が再現されており、ドイツの伝統行事であるオクトバーフェストのような雰囲気であり、参加者は大変盛り上がった。

インターイベント活動報告

❏期間　　2011 年 1 月 7 日～1 月 9 日

❏場所　　ブラジル連邦共和国、サンタ・カタリーナ州、フロリアノポリス

❏参加者　第 11 回世界スカウトユースフォーラム参加者

❏活動概要
1 日目：午前中は、市内観光。午後は、湖畔と砂丘を観光。
2 日目：午前中から午後にかけて海水浴。

❏活動詳細
■市内観光
ブルメナウはドイツ系移民の入植により創設された町であるため、至る所にドイツ風の建造物が立ち並んでいる。南米とドイツの町並みが融合した不思議な町である。観光はフォーラム参加者と共に回った。

■湖畔と砂丘を観光
希望者はコンセイサオ湖周辺とドゥナという砂丘を地元フロリアノポリスのスカウトと観光した。観光を堪能するだけでなく、地元のスカウトとも交流を図ることが出来た。

■海水浴
カナスビエイラ海岸にて参加スカウトと海水浴を楽しんだ。各国スカウトがフォーラム期間中には見せない顔を見ることができ、彼らとの親睦をさらに深めることが出来た。

❏総括
インターイベントを通して、フォーラム期間中にはあまり話したことのなかったスカウトとも交流することができた。ただ観光するだけでなく、イベント中でもたわいもない会話から互いの国の青年参画について話し合うことができ、非常に有意義なイベントとなった。

評価・反省

❏フォーラムへの評価
参加者の意見を共有することができたのは、各分科会においてのみであった。
つまり、各分科会で話し合われた内容、結論などを、全体で共有することは、今回のフォーラムにおいては一度もなかったということが、今大会の一番の印象である。各地域の取り組みについての共有はなされたが、実際にフォーラム期間中に討論されたことについては、全体で共有されることはなかった。そのため、自分が参加しなかった分科会についての情報は、各自が他の参加者に聞かなければならない状況であった。もちろん、各自がそういった情報交換を行っていれば問題はなかったのかもしれないが、情報交換は、それほど円滑には行われなかったようである。そのひとつの表れとして、提言文の多さがあげられるだろう。今回採択された提言文は 25 個、ページにして 12 ページに及ぶ。一方、前回採択された提言文は 12 個で、ページにして 4 ページ強である。単純に比較はできないまでも、提言文を見ただけでは、フォーラムで何を討論したのかが明確でない状態になっていると思われる。もちろん、提言文の量でフォーラムの質が決定されるわけではないが、提案されたものが多い分だけ、ひとつの提案に費やすことのできる時間は短くならざるを得ず、提案されたものを提言文に盛り込むかどうかの議論も十分にできない可能性が高まるもの否定できない事実である。今回、提言文がこのように長くなった理由のひとつとして、各分科会での話し合いの共有がなされていなかったことをあげることができる。つまり、それぞれが分科会で話し合ったことをそのまま提言文として盛り込もうという動きがあったがために、このように数多くの提言文ができあがってしまったといわざるを得ない。フォーラムの目的のひとつとして、提言文の作成があげられている以上、今回のフォーラムには、残念ながら、高評価を与えることはできない。
また、運営に関してだが、尋ねる人によって、同じ質問であるにもかかわらず、帰ってくる答えが異なることが多々あった。しかも、同じ人に聞いたにもかかわらず、前日とまったく違った答えが返ってくることも何度かあり、とても困惑をしながらフォーラム期間中をすごすこととなり、この点でも、高評価と言うことができないのではないかと思う。

❏ホスト国連盟の運営面への評価
運営に関しては、困っていたところを助けてもらうことが何度もあり、非常によく接していただいた。とてもすばらしいと思う。しかしそれは、個人でできる範囲の話に限られていた。
われわれが空港に到着したのが 17 時 10 分であった。しかし、空港からホテルへと向かうバスに乗ったのが、次の日の真夜中の 1 時過ぎであった。そして、実際にホテルに着いたのは、午前 4 時 30 分であった。
空港での約 8 時間の待ち時間で、同じように足止めされた他のフォーラム参加者と話をするなどしてすごしたので、一概に悪かったとは言えないけれども、運営面の評価としては、決してよいものではないだろう。さらに、次の日のプログラムは、朝食を済ませてから 8 時から始まるという、われわれにとっては酷なものであった。
それを除けば、フォーラム期間中では、部屋が豪雨で水浸しになった際の対応など、悪い点はなかったように思われる。

❏個人評価

■代表　鈴木雄大　（山形連盟山形第 29 団）

「意見・情報の列挙。」これが今回のユースフォーラムでの討論の私の印象である。討論は、「なぜ」というキーワードを軸として、それぞれの考えがどのように現れることになったのかを共有することが重要な目的であると私は考えており、もちろん今でもその考えは持ち続けている。しかし、世界スカウトユースフォーラムという各国の精鋭が集まるべき場での討論は、それほど私の討論の目的は達成されなかった。それぞれが思う「なぜ」を共有できた分科会は、1 つしかなかったためだ。残りは、すべて各人の意見の列挙がメインとなってしまい、「なぜ」の出番はまったくといっていいほどなかった。こちらが聞いても、他の参加者は乗り気でなかったのだ。
私は、第 5 回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラム、第 6 回アジア太平洋地域スカウトユースフォーラムに参加したこともあるため、今回は 3 回目の国際的なスカウトユースフォーラムへの参加であった。3 回もこういった機会を与えられたことに感謝しているが、今回のフォーラムへ参加したことがどれほど自分に影響を与えているか、どのような影響を与えているのか、今はまだわからない。もちろん、参加したことによってもたらされたことは非常に自分にとってプラスであることは間違いないのだが、フォーラム自体の影響を考えると、上手く答えることができない。それが以前の 2 つのフォーラムとは違った点であった。
今回のもうひとつの私の印象は、「理不尽」であった。「こうしてください」と言われたが故にそうしたところ、「それは受け付けられない」とのやりとりが、一度ではない、幾度とあった。日ごろすんでいるところから見て、地球の反対側に来てまで理不尽なことと遭遇するとは思っていなかったがために、この印象が強かった。しかし、自分の人生の糧になったと断言できることがある。「理不尽はいつ、いかなる場所にでも存在可能性を持っている」という教訓だ。
今回の思い出が、今後、どのように私の人生に影響していくのか定かではないが、ひとつだけはっきりしていることは、この思い出も、私の人生の一部となったということである。
今回、こういった機会を与えて下さった、日本連盟、山形県連盟、山形第 29 団、そして何より、両親に感謝しています。ありがとうございました。

[次回の世界スカウトユースフォーラムの参加者へ]
今回のフォーラムに対して否定的なことも言ったものの、いずれにしても、いろんな意味で、すばらしい体験をすることになると思います。
自らが楽しむため、そして、みんなと楽しむために、いろいろなことを予備知識として蓄えてください。しかし、実際にフォーラムが始まってからは、その予備知識を一切捨て去ってください。討論は、知識を競う場ではありません。討論は、お互いの考えによって、成立していくものです。自分の考えを、そして、「なぜ」そう考えるのかを、話してきてください。何から出発して、そういった意見にたどり着くのか、それを楽しんでください。世界のいろんな人と、ダイアログを。
そして、何があっても、めげないこと。自分に溜め込まないこと。事前研修会に、お会いできることを楽しみにしております。

■代表　永田千尋　（愛知連盟豊田第 15 団）

世界スカウトユースフォーラムは私にとって初の国際イベントであり、大変思い出深い物であった。所属団ではローバースカウトとしての活動はほぼ無く、スカウトとしての経験値の低い私が事前訓練と短期の勉強をしたところで日本のスカウティングを世界に発信することは出来ない。初めのうち、私のとれた唯一の行動は情報をひたすら吸収することであった。もちろん議論に参加し意見交換に積極的に参加するように努めたが、基本的に受身の姿勢であった。前回大会の参加者の報告にもあるように、日本代表としての意見は無く意見を要求された際に、個人としての意見を述べるほかなく、国として主張し辛かった。しかし、本ユースフォーラムでは国の代表としての討論よりも個人として意見を述べる機会が多く、地域の情報しかない私でも意見交換に参加し易かったのは幸いであった。このことから、次回の大会までには全国のスカウトの意見集約を行い、国として主張できるように環境を整えなくてはならないと感じた。世界の各地域の中でも APR は青年参画において一歩後ろに居るが、同じ APR 内でも日本は更に遅れている。オーストラリアでは若いスカウトが組織の中核において発言権を持ち、スカウティングに挑んでいる。隣国の韓国でもユースグループが活発に活動し青年参画の更なる発展に挑んでいる中、日本はユースをまとめる組織も存在しない。来る世界ジャンボリーで日本のスカウティングをアピールするためにもこれからを担うユースをまとめる組織は不可欠ではないだろうか。
ユースフォーラムで行われた分科会だが、事前に配布されたドキュメントを基とした討論は一部のみで、ほとんどのセッションが各人の意見を聞いては納得する一種の井戸端会議のようなものであった。各国各地域の活動を知るには非常に良い経験であったが、議論が行き詰まるとあきらめの雰囲気を感じることもあり、結論に至らないセッションもあったのは、消化不良にも感じる。また、フォーラムのテーマが青年参画及びこれからのスカウティングに偏っていたので他のテーマについて各国の意見をあまり聞けなかったのが残念であった。
個人的な収穫はあり、それは世界のカブスカウトの文通を得ることができたことである。また、オープンフォーラムの際には衰退状況からの打開実例を聞くことが出来たのは大きかった。

[次回の世界スカウトユースフォーラム参加スカウトへ]
ドキュメントはギリギリまで更新されるので確認は怠らないこと。また、毎大会同一のスケジュールではないのできちんと把握しないと準備が無駄になってしまう。(前大会は毎朝プレゼンの機会があったそうだが今年は無かったし、踊りの準備をしていったが踊りも無かった。）　同じ地域の代表等決まった国の人ばかりと過ごすのではなく、多岐に富んだ交流を持つことを薦める。ただし、APR 間の交流を疎かにしないよう気をつけるべき。また、現地において書類や情報も不備で届かないケースもある。今回もオリエンテーション会場の急な変更やレコメンデーションリストの不備といったことがあった。男性はスーツ、女性はドレスをとまでは言わないが、制服以外にも食事会等に着ていくような服を最低でも一着持って行くことを薦める。体調管理に関しても、時差ぼけとエアコンによる空調管理、食生活の違い等で崩しやすいので気をつけること。地域でのスカウティング経験しかない場合でも自分の意見をしっかり持つことで国としてではなくとも発言できる。語りたいことは語りつくさないと後悔するでしょう。

■オブザーバー　上田陽平　（東京連盟練馬第 15 団、東京連盟千代田第 11 団）

私は以前より日本でのスカウト活動における閉塞感を感じており、改善策を模索するため WOSM の資料や過年度のユースフォーラム参加者の先輩等から情報収集を行った。その結果、世界各国のスカウト(特にローバースカウト)が極めて活発な活動を展開していることを知った。私は世界スカウトユースフォーラムを通して改善策のヒントを得られると考え、本フォーラムに応募した。
フォーラムで学んだことは、活発なローバー活動が展開されている NSO では青年参画が進んでいることやローバー(ユース)年代の組織が形成されていることである。本運動体においてスカウト側のニーズと連盟側の政策のずれは致命的であり、その時代と社会に応じたスカウト活動を展開しなければならない。実際、オーストラリアやヨーロッパ各国の連盟では組織の中枢部(意思決定機関)にローバー（ユース）年代のスカウトを送り込み、彼らが組織運営に携っている。メキシコでも NSO レベルでのローバー年代の組織が存在する。
現在日本ではローバースカウトの活動において様々な問題が存在する。この問題を改善しなければ日本のローバーリングの活性化はあり得ない。しかし、現時点でローバースカウトの意見を中枢部に届けるシステムは存在しない。故に問題改善は非常に困難な状況だ。今回のユースフォーラムで青年参画の重要性を再確認した。日本におけるローバー年代のコミュニティーを設立と、青年参画の必要性を強く感じた。
また、本フォーラムの本来の意義は世界スカウト会議前にスカウト側から提言を発信することであるが、我々日本の派遣員は WOSM の組織運営面や資金運用面の議論を全く理解することが出来ず、フォーラムに参加する前提知識及び意見が無いことを痛感した。フォーラムが単なる情報収集と意見交換の場となってしまったことは反省点である。しかし、分科会などの意見交換の場では出来るだけ自分の意見を発表するように努め、多くのスカウトと情報共有をすることが出来たことは評価点であると考える。また、本フォーラムをとおして、多くの国のスカウトと友好を深められたことは私の人生の財産である。
最後に、本派遣でお世話になったスカウト関係者の皆様に感謝の意を表したいと思います。有り難うございました。

[次回の世界スカウトユースフォーラム参加者へ]
派遣後が重要です。世界スカウトユースフォーラム参加をゴールとせず、フォーラムで得たことを日本国内でフィードバックしていく必要があります。報告会に止まらず積極的なアクションを起こしていかなければならないと思います。

日本連盟への提言

第 11 回世界スカウトユースフォーラム日本派遣員はボーイスカウト日本連盟に対して以下の提言を行う。

①日本連盟内にローバースカウト年代の自治運営組織を導入することを提言する。

その理由として以下が挙げられる。
・ボーイスカウト日本連盟のローバースカウト活動理念の項目に「ローバースカウト隊の活動は隊で定めた自治規則に則り、活動の目標を定めて運営され、スカウト自ら実施する自己研鑽と、隊が行う奉仕活動その他の社会活動によって行われる。」と記載されている。この様にローバースカウトは自治運営を求められたスカウトセクションであるため。
・世界のスカウティングにおいて、青年参画及びローバー（ユース）活動の活性化は重要視され、第 39 回世界スカウト会議においても本件に関する提言文が採択されたため。
・現状ではローバー活動を実質的に制限している規定及び暗黙のルールが存在している。本問題の改善は日本のスカウティングの活性化の観点からも必要不可欠であるため。

②ボーイスカウト日本連盟の各委員会において 30 歳以下の委員を最低 1 名選出することを提言する。

その理由として以下が挙げられる。
・世界のスカウト運動の流れとしても青年参画は必要不可欠という見解があり、青年参画の発展に関する提言文が第 39 回スカウト会議においても採択されたため。
・若い人材を委員に選出することで彼らの育成を図ることは本連盟の永続的運営の観点において極めて重要であるため。
・スカウトの意見抽出は本運動体の繁栄にとって極めて重要であるため。

③次回の世界スカウトユースフォーラムのための事前研修会に過年度のフォーラム参加者を招集することを提言する。

その理由として以下が挙げられる。
・過年度のフォーラム参加者の意見、感想を実際に聞くことで参加予定者のフォーラムに対する理解を深めるため。
・過年度のフォーラムで挙がった日本代表としての意見、反省をよりよく伝達するため。

④フォーラム等に関わる報告書を含めた資料を常時閲覧可能なウェブページを作成し公開することを提言する。

その理由として以下が挙げられる。
・過年度のフォーラムでの日本代表の成果及び課題を次回のフォーラム参加予定者に共有するため。
・日本全国のスカウトに対してフォーラムでの成果及び課題をフィードバックするため。